

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 84 号

視覚障がい者柔道競技の試合局面にみられる戦術行動の有効性

(The effectiveness of tactical behavior in Judo matches for the visually impaired)

佐藤 伸一郎 (さとう しんいちろう)

博士 (スポーツ健康科学)

### 論文審査結果の要旨

#### 【研究目的の特徴・独創性・論理性】

本研究は、国内外の先行研究にはみられない視覚障がい者柔道競技の試合における有効な戦術行動を検討するものである。分析内容は、晴眼者柔道競技と同様の分析項目に加え、視覚障がい競技特有の試合進行に基づく行動を局面別に分析を行っており、有効な投技施技に至る組み手の戦術行動を明らかにした点や、勝利へ結びつくために有効と考えられる戦術選択の一連性を検討した点に独創性と論理性がある。

#### 【研究方法の妥当性】

競技レベルの高い大会（オリンピック・国際大会）を研究対象とし、分析項目や方法も先行研究の手法に基づいておこなわれている。調査データは、倫理的に十分に配慮されて取り扱われている。分析はあたっては、柔道の専門的立場の者（段位・指導者ライセンス保持）が複数名にて戦術や行動に関わる内容を判断しており、スコア比率の差の検討には $\chi^2$ 検定を用いた検証がされており、妥当性や信頼性が確保されている。

#### 【結果・知見の新しさ】

これまで視覚障がい者柔道競技の競技戦術に関する報告は皆無であるが、その戦術行動の解明が行われ、コントロールグリップ時の組み方の選択や逆側への組み方の変更などの戦術行動が投技のスコア比率を上げていること、また、投技のスコア有無による固技施技の選択の有効性など新しい知見がみいだせた。

#### 【考察および結論の妥当性】

本研究での考察は、晴眼者競技分析に用いられている項目においては、先行研究と同様の結果が得られているため、適切に参考文献を用いながら論理的に考察が行われ知見が得られている。また、新たに明らかになった視覚障がい者特有の知見については、執筆者の柔道競技者の経験および指導者としての技術、戦術論をもとに提言しており、妥当な結論を導いていると考えられる。

#### 【研究の当該分野における位置づけ】

本研究の結果は、我が国の視覚障がい者柔道競技者に対して、普遍的におこなわれてきたスタンダードな競技指導に一石を投じる知見となると考えられる。過去、明らかに

されてこなかった戦術行動の有効性は、今後の視覚障がい者柔道競技の戦術開発に向けて大きな意義をもつと判断される。なお、本研究は全日本柔道連盟からの資料提供を受けて行われており、分析データは既に国際大会での方策として、競技現場で活用されている。

#### 【質疑に対する応答の適切性】

質疑に関しては、真摯に回答する態度がみられた。応答の適応性については、技術論を追及するあまり、やや説明に困惑することや不明瞭な場面もあったものの適切に対応できていた。

#### 【学位申請者の研究能力】

学位申請者は研究課題に関し、2018年から学会発表（口頭）を展開しながら学位論文を執筆している。また、本務校では教授として研究教育活動に携わりながら、全日本柔道連盟強化委員会科学研究部長（戦術分析担当）としてその重責を果たし、競技分析の高い研究能力を有していると考えられる。

#### 【論文審査の結果】

審査会は、本研究が独創性、論理性に富み、信頼性、客観性に基づく博士論文であると認め、「合」とする。